

# 土木森林環境委員会 県内調査活動状況

- 1 日 時 平成29年2月1日(水)
- 2 委員出席者(8名)  
委員長 早川 浩  
副委員長 山田 七穂  
委員 皆川 巖 渡辺 英機 白壁 賢一 塩澤 浩  
水岸 富美男 小越 智子
- 3 委員欠席者 なし
- 4 地元議員の出席状況(笛吹・八代スマートインターチェンジの調査に出席)  
前島 茂松 議員(笛吹市) 中村 正則 議員(笛吹市)
- 5 調査先及び調査内容

## (1) 【笛吹・八代スマートインターチェンジ】(笛吹市)

### 調査内容

東八代合同庁舎大会議室において当事業の概要説明を受けた後、現地視察を行った。





## ( 2 ) 【富士河口湖町小立福祉センター】 ( 富士河口湖町 )

### 調査内容

河口湖町小立福祉センター会議室において概要説明を受け、質疑を行った後、センター内を見学した。

### 主な質疑

問) この建物では木材がどのくらい使われているのか。

答) この建物の木材使用量は、全体で117立方メートルとなっている。

問) この事業費の中で木材の費用にはどのくらい充てられたのか。

答) 金額については、工事費も込みなので今手元にはないが、羽柄材や構造材である梁、柱に多く木材を使っている。

問) 木造公共施設当整備補助金5千万円を全額117立方メートルに充てたのか、足りなかったのか、少なかったのかそれもわからないということか。後でわかったら教えてもらいたい。

答) 補助率については、木材だけではなく、機械設備費などを除いた工事費における2分の1の補助制度となっていたため、木材のみにかかった費用に対しての2分の1といった制度ではない。

問) 資料の建設の場所を見ると富士北麓地域が多い気がするが、こちらの木材は富士北麓地域の木材なのか。甲府市とか峡東とか北杜市の方では、この補助金を使っての建設は不可能なのか、なぜこちらの建設が多いのか理由があったら教えてもらいたい。

答) 資料では、平成27年度、28年度竣工ということで挙げているが、例えば27年度には蕪崎市内でも介護福祉施設で補助をしているところがあり、補助が該当するものであれば全県的に建築できる。たまたま今回挙げた竣工年度では、富士河口湖町、都留市、西桂町、大月市といったところが見えているが、より幅広く取ると全県的な広がりになっている。

問) 県産材をどんどん使って頂き、山梨県をPRしていただいたいですが、一般的に木造住宅をつくるときに、県産材を使うことでどのくらい建築費が上がるのかまたは下がるのか。

答) 住宅を建てるに当たっては、取引関係とか様々あると思うので、県産材なのでいくらかとかなんかというのは、私どもも調査し切れていない。ただ、木材業界の方々や素材生産業者の方々のご意見、また取引関係などから聞くと、県産材はいろいろなところで使われているということなので、県産材だから特に高くなるという話は聞いていない。

問) この建物の梁は合板というか木を重ねてつくってあるが、CLTとは違うのか。

答) この梁に使われているのは集成材である。集成材は繊維が同じ方向に重ねてあるものであり、一方、CLTはそれぞれが直行するように重なっていることが大きな違いである。

問) この梁はカラマツなのか、杉なのか。

答) これは、カラマツである。

問) 集成材をつくる業者は県内にあるのか。

答) 集成材をつくる業者は県内にないため、福島に工場に県産材を持って行き集成材にして、このように使用している。

問) それで採算取れるというか、安くできるのか。県内に業者があればコストが下がるのか。

答) 確かに地元であれば運送費がかからないと思うが、一般的に取引として大きなロットで持って行く場合には、運送費というよりも加工費がかかるので、運送費はその中のシェアが少ないという話を、業界関係者などから聞いている。

問) 要は、補助金を使って建築すると高上がりするのではないかということ。もちろん林業振興はあるが、この建物の設計の金物が、ある決まった枠組みだったから、値段が下がらなかった。もう一点は、県産材を長野県や福島県などよそへ持って行って加工しているので、運搬費もかかってしまう。高いものになる。県内で加工していた集成材組合が営業を停止して、そこを買い取ったのが山梨の業者だが、まだ集成材をつくっていない。それが操業できると当初の考え方がまたできる。そういう方法を考えてやらなきゃだめだ。要は補助金をもらっても、それ以上に高く付いたら意味が無いってことを皆さん言っている。それが、安くなり、強くなって長持ちし、なおかつ林業の振興に寄与するということであれば万々歳だけど、そういう努力を森林環境部もしなきゃだめだ。

CLTもまだ、需要と供給のバランスが取れていない。今回、日本で一番大きなCLTを使うと知事が言っていたが、コストが高いものになるのではないかと。そういうことをちゃんとやらなければ、せっかく木を使いながら林業振興にも繋がらなくなってしまうから、努力して欲しい。

答) 先ほど事業の説明でもあったが、国のルールでは補助率が15パーセントであり、技術力が高いが普及していないものについて、政策的に普及させていこうということで、CLTを使おうという話がある。しかし、それだけではなく、例えば四寸角をいかに上手に使うって大きい構造をトラスでつくるかとか、そういうやり方もあるので、そういった形も含め、いろいろな使い方があるということについては、我々も補助金の仕組みを説明していくうえで十分周知して、効率的な使い方を考えていきたいと思っている。

